

1 プログラムの提出方法

1.1 プログラムの提出先

作成したソースファイルのみを

`https://echoes.hak.hokkyodai.ac.jp/report/`

から提出する。その際には、プログラムが存在するコンピュータ（実習用コンピュータ）で Web ブラウザを起動する必要がある。実習用コンピュータでは `w3m` というブラウザが使える。X Window System が動いているならば、`firefox -no-remote &` を実行して Mozilla Firefox でのプログラム提出もできる。

1.2 w3m (テキストベース Web ブラウザ) の使い方

1.2.1 起動法

`w3m [URI または file]` ¹

例) `w3m https://echoes.hak.hokkyodai.ac.jp/report/`

送信ファイル名記入時の誤りを防ぐために、`w3m` はソースファイルが存在するディレクトリで起動するのがよい。

1.2.2 SSL の設定

プログラム提出先のページにアクセスするために以下の操作を一度行う必要がある。

1. `o` (オー) コマンドで Option Setting Panel を表示
2. 画面下部の「SSL の設定」の「SSL のサーバを行う」を NO に変更し、[OK] 欄で <ENTER> を押す。

1.2.3 操作法

<code>q</code> または <code>Q</code>	終了
<code><TAB></code>	次のリンクにカーソル移動
<code><ENTER></code>	カーソル位置のリンクページ閲覧やフォームの記入等 (GUI ブラウザでの左クリックに相当する操作)
<code>CTRL-c</code>	操作の中断
<code>B</code>	現在表示中のバッファを削除 (「前のページに戻る」的操作)
<code>H</code>	ヘルプ画面の表示
<code>U</code>	URL を指定してページを表示
<code>o</code> (小文字のオー)	設定変更画面を表示

カーソル移動や画面の上下移動等の操作には `less`, `emacs`, `vi` 流のコマンドが利用可。画面の乱れは `CTRL-l` で直せる。その他のコマンドについては、ヘルプ画面や `man` ページを参照のこと。

`w3m` はファイル名の入力誤りを検知しないので、ファイル名の記入誤りを防ぐために、フォームへのファイル名記入では `<TAB>` によるファイル名の補完を使うこと。

¹ コマンドラインオプションを付けて `w3m` を起動することもできる。詳細は `man w3m` を実行のこと。